

令和 7 年度

# 事業報告書

令和 7 年 4 月 1 日から

令和 8 年 3 月 31 日まで

公益財団法人日本習字教育財団

## 目 次

(令和7年度事業報告)

一. 書道の通信教育及び実習指導.....	1
1. 通信教育.....	1
2. 実習指導.....	4
3. 教室開設促進.....	5
4. 教室への新入会者並びに教室の学習活動支援.....	5
5. 書道用具の頒布.....	6
6. Webサイトの運用.....	7
7. 習字の日.....	8
8. 展覧会の後援及び書道展等の支援.....	9
9. 文化講演会の開催.....	9
10. 原田観峰先生没後30年企画.....	9
11. 「書道」の魅力訴求と価値発信.....	9
二. 書道に関する展覧会の開催.....	11
1. 書道展の開催.....	11
2. 書き初め大会の開催.....	13
三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行.....	15
四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開.....	16
1. 書道文化に関する調査研究.....	16
2. 文字資料その他文化資料の展示公開.....	16
3. 教育・文化施設の運営.....	17
五. 書道に関する教育・研究機関への助成.....	18
六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業.....	18
■運営体制の充実に関する事項.....	19

## 一. 書道の通信教育及び実習指導

### 1. 通信教育

幼児から成人までを対象とした通信教育を実施し、年齢・習熟度に応じた体系的な手本（教材）を提供した。添削指導を通じて、あらゆる世代に正しい文字・美しい文字の習得機会を提供するとともに、段級位認定による学習者への継続的な目標設定を後押しし、技能向上と学習意欲の喚起に努めた。また、各種昇段試験及び免許状授与制度を運用し、専門的な技能を備えた人材の育成・輩出を行い、地域社会における書道教育及び書道文化の振興を推進した。

#### (1) 教材

各コースそれぞれ手本（教材）及び教師用指導書「教師月報」を配付した。通信教育会員向け機関紙「日本習字だより」と「たのしい習字」を毎月発行した。臨書部は、臨書学習の重要性を伝え学ぶ楽しさを実感できるよう、令和7年4月号より学びやすい体系へと学習システムの見直しを行い、改善を図った。



#### (2) 学習方法

受講申し込みの後、教材配本→学習後、課題提出→認定・添削、質問への回答→返送を1か月の学習サイクルとして行った。また書写技能基礎講座、書道臨書講座については最終課題提出時に修了試験を行った。



添削指導枚数 4, 595, 196枚

(3) コース

No.	通信教育の名称	期 間
1	日本習字幼児部	12か月
2	日本習字小学1年	12か月
3	日本習字小学2年	12か月
4	日本習字小学3年	12か月
5	日本習字小学4年	12か月
6	日本習字小学5年	12か月
7	日本習字小学6年	12か月
8	日本習字中学1年	12か月
9	日本習字中学2・3年	12か月
10	日本習字漢字部	12か月
11	日本習字かな部	12か月
12	日本習字ペン部	12か月
13	実用書道くらしの書	12か月
14	日本習字臨書部	12か月
15	書写技能基礎講座【楷書編】(文部科学省認定)	6か月
16	書写技能基礎講座【行書編】(文部科学省認定)	6か月
17	書道臨書講座【楷書Ⅰ】(文部科学省認定)	5か月
18	書道臨書講座【楷書Ⅱ】(文部科学省認定)	4～12か月
19	書道臨書講座【隸書】	3～6か月

(4) 日本習字模範揮毫DVD (P2 No.1～11、12か月) を2,975枚、日本習字臨書部模範揮毫DVD (付録:解説付拡大手本・条幅、12か月) を2,966枚頒布した。

「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本32」を1,175冊、「日本習字漢字部 条幅課題拡大手本33」を1,114冊頒布した。

(5) 新入会者を対象とした教材「入門編(生徒手本課題集)」「入門編(成人手本課題集)」を新入会の希望者に配布。認定添削を行った。

(6) 資格認定

ア. 段級位の認定

(ア) 会員の課題出品に対して各コースそれぞれの基準に従って審査し段級位を認定した。

(イ) 漢字部昇段試験

受験有資格者に対し、昇段試験を実施した。(7月)

段位	受験者数
六段位	708人
七段位	560人
八段位	567人
合計	1,835人

(ウ) 臨書部昇段試験

受験有資格者に対し、昇段試験を実施した。(7月)

段位	受験者数
六段位	81人
七段位	53人
八段位	294人
合計	428人

(エ) 生徒部八段位昇段試験

準八段取得者に対し、昇段試験を実施した。(7・11・3月)

開催月	受験者数
7月	2,228人
11月	5,869人
令和8年3月	6,348人
合計	14,445人

イ. 「くらしの書」実力の認定

希望者に対し、実力認定試験を実施した。(4月)

級位	受験者数
初級	238人
中級	190人
上級	165人
合計	593人

臨書部は新たに八段位を設けて実施した。

(7) 認定証の発行

ア. 所定の段級位合格者に対し、本人の申請により段級位認定証を発行した。発行件数23,864件

イ. 「くらしの書」実力認定試験の合格者に対し、本人の申請により認定証を発行した。発行件数205件



(8) 免許状の発行

免許状取得資格者に対し、本人の申請により免許状を発行した。発行件数 18,594 件



(9) 合格証書の発行

ア. 漢字部六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格証書を発行した。発行件数 1,144 件

イ. 臨書部六段位、七段位、八段位の合格者に対し、本人の申請により合格証書を発行した。発行件数 268 件

(10) 雅号之証の発行

雅号を希望する者に対し、雅号之証を発行した。発行件数 1,055 件

(11) 表彰

通信教育受講者の中から、特に成績が優秀な者を第76回文部科学省認定社会通信教育修了者表彰に推薦し、表彰された（主催：文部科学省、一般財団法人社会通信教育協会）。

書写技能基礎講座〔行書編〕課程 1人

2. 実習指導



本法人研修施設や全国各地で主に対面による実習指導を実施した。習熟度を高める環境の整備と細やかな指導により技能向上を図るとともに、受講者同士の交流を促進して学習意欲を喚起し、相互に研鑽できる教育機会を提供した。講座受講者数は、全国36会場での課題学習会(支部長交流会内)実施により、受講者数は全体で132人増加した。

(1) 東京研修所

漢字部コース（基本・応用）、条幅コース（基本・応用）、臨書部コース（基本・応用）、かな部基本、書写と書道を学ぶ講座等、108回開催、延べ受講者数 1,397 人。

(2) 福岡研修所

漢字部コース（基本・応用）、条幅コース（基本・応用）、臨書部コース（基本・応用）、かな部（基本・応用）、書写と書道を学ぶ講座を123回開催等、延べ受講者数1,571人。

(3) 沖縄研修所

漢字部講座、漢字部研究講座、条幅講座、かな講座に短期講座として、臨書の学び方等194回開催、延べ受講者数1,838人。

(4) 各地講習会

全国各地にて実習指導（漢字部昇段試験対策講座、習字教室開設研修会、支部長交流会〈課題学習会〉、新支部長懇談会）を295回開催、延べ受講者数3,148人。

また、公益財団法人京都市国際交流協会との共催事業をはじめ、各種団体の要請に応じて、訪日中の高校生や国内在住の外国人留学生を対象にした書道体験ワークショップを京都市で開催した（8月7日、10月18日：京都市国際交流会館・延べ参加者数32人）。



3. 教室開設促進

地域社会における書道学習の機会の維持・拡大を図るため、習字教室の開設を希望する指導者の育成及び支援を行った。教室指導者の魅力や本法人のサポート体制などを伝える「教室開設説明会」、開設に必要な知識や生徒の指導法等を実践的に学ぶ「教室開設研修会」を実施した。また、Web広告等を展開し、書道の継承を担う新たな指導者の確保及び養成に努めた。

教室開設研修会は43開催を実施。参加者数288人のうち216人が教室を開設した。教室開設数の合計は344件。

4. 教室への新入会者並びに教室の学習活動支援

書道学習の機会拡大のため、教室への新規入会を目的とした普及活動と、会員の長期受講を促進する活動を実施した。

(1) 「日本習字 教室入会キャンペーン」

各教室での新規入会を促進するため、習字用具の進呈や募集ツール等の提供を行う入会キャンペーンを実施した（参加申込制）。

期間：令和7年1月6日～令和7年9月20日

新入会者数40,068人（うちキャンペーン入会者29,398人）

(2) 教室向け幼児教材の普及促進

「はじめて Labo」「えんぴつクラブ」を使った幼児クラス開設を促進した。文字を書く姿勢、鉛筆の持ち方など、習字の指導者だからできる幼児への指導を訴求し、手本受講へつなげるための活動を行った。817セットの教材を頒布し、427人が入会した。教材の取り扱いを始めて3年が経過し、徐々にではあるが浸透しており、2,040人の指導者が活用している。

(3) 「中学部受講促進」

小学6年生に中学部課題の先行学習機会の提供や、中学部継続受講申し込み特典等の学習支援を行い、15,402人が中学部へ継続受講した。

令和7年度末会員数は、264,910人。令和7年度末指導者数は、9,567人である。

5. 書道用具の頒布

会員に対し、書道の技能向上を図る上で最適な書道用具等を選定・推奨して頒布した。これらの頒布を通じて、製筆・製墨・製紙等の伝統産業の技術継承及び持続的な発展に資するものとなった。会員が学習目的に合わせて活用できるよう、用具図書カタログとオンラインショップで広く紹介した。



【オンラインショップ】

(1) 選定品の頒布

書道技能向上を目的とした通信教育各コースの学習において、課題の履修のために欠くことのできない書道用具（筆・紙・墨・硯等）及び硬筆用具（鉛筆・ペン・用紙等）を頒布した。

(2) 推奨品の頒布

選定品以外に会員からの斡旋要望または書道作品制作及び書道学習の履修に必要となる用具を頒布した。

### (3) 頒布会品の頒布

特別頒布会を実施し、競書大会・教室イベント・教室での作品展向けの書道用具・展示用具などの頒布会品を期間限定で斡旋した。春の特別頒布会では教室支援品、文房具等の頒布を行った。またオンラインショップ限定の頒布を年12回実施した。

ア. 「たなばた特別頒布会」 5月27日～7月24日

※公募日本習字展向け用具特別頒布会は9月11日まで

イ. 「かきぞめ特別頒布会」 10月28日～12月18日

ウ. 「春の特別頒布会」 令和8年2月2日～3月23日

## 6. Webサイトの運用

### (1) 日本習字公式Webサイト

本法人の理念や活動を広く公開し、全国の習字教室検索や受講案内、各種問い合わせに適切に対応する窓口として運用を行った。SNSやWebメディアを効果的に活用して主催行事の公募展覧会などの告知を行い、書道に関心を持つ層へ幅広く情報発信した。例年、公式Webサイトのアクセスが増える1月から3月に併せて、Web広告や広告に関連した教材の案内、また駅での交通広告を行った結果、公式Webサイトへのアクセスが増加した。

#### 年間アクセス件数

セッション数 (訪問の回数)	ユーザー数 (訪問者の数)	教室検索数	通信申込数	問合せ
706,668	501,920	5,576	2,120	3,816



【日本習字公式Webサイト】

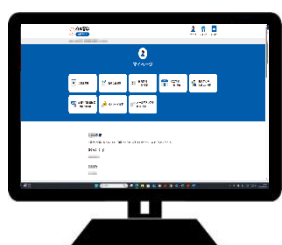


【Web広告(動画)】

### (2) 日本習字会員向けサイト

会員向けサイト及びオンラインショップのリニューアルを実施。5月に旧サイトから新サイトへ移行し、Web上から各種申し込みや申請・継続手続き等が可能になった。会員サイトに登録し、かつ利用している教室は4,185件、全体の66.4%がサイトを活用している。また、リニューアル後は

通信講座の代表者も利用できるようになり、4,064件の登録が完了している。利用状況としては、年間アクセス数の上位5項目は、「マイページ」(220,413件)、「お知らせ」(172,216件)、「段級位照会」(140,683件)、「各種申込」(125,340件)、「出品状況」(101,853件)と、リニューアル前よりもアクセス数が増加した。Webからの各種試験の申し込みは、11月実施の試験から開始した。受験申し込み件数は、生徒部八段位昇段試験(11月・令和8年3月)は2,191件、くらしの書実力認定試験(令和8年4月実施)は196件。オンラインショップは商品のレビューや売れ筋商品の表示など、新たな機能を追加して利便性の向上を図った。リニューアル前に比べ、新規登録件数は3,381件。



【日本習字会員向けサイト】



【オンラインショップ】



## 7. 習字の日

日本習字制定の記念日「習字の日(11月2日 いい(11)もじ(2)の語呂合わせ)」に関連して、「手書きの文字」のよさや重要性を伝え、その文化を広めるために次の企画を実施した。

### (1) 「手紙をかこう」ツールの配付

手紙やはがきで思いを伝えるツールを、習字教室をはじめ、広く配布して文字を書くことの楽しさや、手書きのよさを再認識する機会を提供した(参加件数:493件、配布数:9,284部)。



【手紙をかこうツール】

### (2) 書道イベントへの協賛

書道の未来を担う若者を応援するため、全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会(愛媛県四国中央市で開催)に協賛した(7月27日)。

### (3) 地域イベントへの参加

1 1月3日の地域イベント（福岡市）に習字の日の普及と地域貢献の一環として書道体験ブースを出展し、毛筆による作品づくりを通じて書道の魅力を広く訴求した。参加者348人。



## 8. 展覧会の後援及び書道展等の支援

地域社会における書道文化活動の活性化を図るため、諸団体が主催する展覧会等に協力を行った。九州矯正管区文芸作品コンクールをはじめとする各種書道展（96件）に対して後援、審査及び運営支援等を実施し、書を通じた地域文化の振興を図った。



## 9. 文化講演会の開催

「特別公開講座」を11月3日、京都市 TKP ガーデンシティ京都タワーホテルで開催した（京都市後援）。講師は京都芸術大学の田口章子氏で、テーマは『型から創造する日本文化』～歌舞伎も書も基本は「型」～。参加者100人。



## 10. 原田観峰先生没後30年企画

本法人の創立者、原田観峰先生の没後30年を記念して、その生涯を書作品や写真等で振り返るイベントを2か所で開催した。



開催日	会場（開催地）	来場者数
令和7年6月28・29日	みやま市総合市民センター（福岡県みやま市）	897人
令和8年1月24・25日	日本習字東京研修所（東京都千代田区）	107人

## 11. 「書道」の魅力訴求と価値発信

近年、デジタル化の進展に伴い、日常生活における手書きの習慣が減少する中、書道文化への関心低下が課題となっている。昨年、書道が日本の伝統文化としてユネスコ無形文化遺産への登録提案がなされたことを契機に、書道の価値や

魅力を改めて社会へ発信する重要性が高まっている。このような状況を踏まえ、当財団では、これまで書道に接点のなかった層を中心に、「習字・書道」への興味・関心を喚起するとともに、「毛筆」で書くことの価値に気づいてもらうことを通じて、書道文化の普及と振興を図ることを目的として、新たなプロモーションプロジェクトを開始した。

「現代における、書道の価値とは何か？」をテーマに、実際に書く体験を通じてその価値を参加者ととも考えていく取り組みを展開し、現代的な視点から「書道の価値」の再定義と魅力発信に取り組むこととした。

### (1) プロジェクトの発足

デジタル社会において「書く」ことの意味を再定義し、現代ならではの価値に「明かりを灯す」プロジェクト。『Relight the Write 書く、ということ。』を発足した。また、20代から40代のライフスタイルや価値観を分析し、生活の質を整えることや多様なカルチャーに関心を持つ層を、書道への興味・関心を持つ可能性が高いコアターゲットとして設定した。



### (2) プロジェクトの展開

令和8年3月23日より、プロジェクトサイトの公開を軸としてWeb広告の配信を開始した。また、プロジェクト発足についてマスコミ各社へのPR活動を実施するとともに、全国JR6社ネットワーク及び渋谷スクランブル交差点において、プロジェクトムービーによる野外広告を掲出した。



### (3) 効果検証

プロジェクトの展開により、多数のメディアに取り上げられ、書道文化への関心喚起に一定の成果が見られた。また、プロジェクト始動前後に定量調査を実施し、広告による書道及び毛筆への関心度や訴求効果を検証したところ、書道経験者層のみならず、未経験者層においても「広告が印象に残った」「プロジェクトサイトを閲覧した」などの反応が確認された。設定したターゲット層において、経験の有無を問わず高い興味・関心が示された。会員数への影響としては、次年度の会員数において減少率の縮小が見られており、本プロジェクトによる認知拡大や関心喚起が、その要因の一つになったものと考えられる。

### (4) 今後の展開

今後は、ターゲット層に対する体験型施策や情報発信を継続的に展開し、書道文化との新たな接点創出を図ることとしている。また、本プロジェクトについては、ユネスコ無形文化遺産への登録提案を契機とした一過性の取り組みとするのではなく、数年にわたり継続的に展開することで、「習字・書道」への関心喚起及び書道文化の普及促進につなげていくこととしている。

## 二. 書道に関する展覧会の開催

日頃の鍛錬の成果を社会に披露する機会であるとともに、書道文化を社会に広く発信する場として、公募展覧会及び書き初め大会を開催した。書道の魅力に触れる機会を提供し、学習意欲の向上を図った。

### 1. 書道展の開催

#### (1) 第28回公募日本習字展の開催

書道文化・書道教育の振興を図ることを目的に、広く一般から毛筆・硬筆作品を公募した。優秀作品はWeb展で発表を行い、特別賞と上位入賞者の一部を対象に表彰式を行った。

ア. 募集方法 本展の作品募集告知を新聞、公式Webサイトで行うとともに、書塾及び書道関係者、書道愛好家に文書にて案内した。

イ. 募集期間 8月1日～9月16日

ウ. 後援 文化庁、中国大使館、京都府、福岡県、京都府教育委員会、福岡県教育委員会、京都市、福岡市、全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連



【募集要項】

合小学校長会、朝日小学生新聞、朝日中高生新聞、その他  
報道機関78社

エ. 出品料 幼児、小学・中学・高校生 700円(税込)

一般(大学生含) 1,400円(税込)

オ. 応募総数 68,972点(目標67,000点)

カ. 審査 日本習字展審査委員会

キ. 審査結果

表彰	賞の区分	賞の名称	毛筆	硬筆・ペン	かな	計
個人	特別賞	文部科学大臣賞	4点			4点
		観峰大賞	13点	12点	1点	26点
		中国大使館賞	4点	4点	1点	9点
		全国都道府県教育長協議会賞	4点	4点		8点
		全国高等学校長協会賞	3点	3点		6点
		全日本中学校長会賞	3点	3点		6点
		全国連合小学校長会長賞	6点	6点		12点
		理事長賞	7点	10点	2点	19点
	入賞	知事賞(京都府 福岡県)	4点	4点		8点
		教育委員会賞・教育長賞(京都府 福岡県)	4点	4点		8点
		市長賞(京都市 福岡市)	4点	4点		8点
		審査委員会奨励賞	38点	29点	8点	75点
		報道機関賞	227点	162点		389点
		日本習字賞	191点	115点	15点	321点
		寿大賞	53点	8点	7点	68点
		寿賞	104点	52点	1点	157点
		秀作賞	4,862点	3,583点	73点	8,518点
		特選	16,818点	12,549点	273点	29,640点
		入選	16,759点	12,638点	293点	29,690点
		団体	優秀団体賞			
奨励団体賞					195団体	

ク. 作品発表

(ア) 入賞作品を対象に、Web展を開催(期  
間:令和8年1月28日~令和8年11  
月30日)



【Web展】

(イ) 文部科学大臣賞、観峰大賞作品を機関紙「日本習字だより」「たの  
しい習字」、公式Webサイトで掲載発表した。

(ウ) 特別賞作品90点を掲載した特別賞入賞作品ポスターを作成し、応募者（代表者）に配布した。



【機関紙】



【公式Webサイト】



【ポスター】

(エ) 表彰式

特別賞と上位入賞者の一部を対象に、東京、京都、福岡の会場で表彰式を開催した。

開催日（令和8年）	会場（開催地）	出席者数
2月8日	ロームシアター京都（京都市）	141人
2月15日	福岡国際会議場（福岡市）	145人
3月22日	日本教育会館（東京都千代田区）	166人
合計		452人



【京都会場】



【福岡会場】



【東京会場】

## 2. 書き初め大会の開催

(1) 第26回日本習字全国書き初め大会（旧日本習字全国席書大会）の開催

書の技能を競い合うだけでなく「書き初め」という日本の伝統文化を次世代に伝えたいという思いから「席書大会」から「書き初め大会」に名称変更した。幼児から成人までの会員を対象に参加者を募集し、6会場で実施した。制限時間20分のもと、学年ごとに決められた課題を手本なしで書き上げ、一斉に披露した。福岡会場ではオンライン（ビデオ会議システム活用）との併催とし、後日、その模様をWeb上で動画配信した。また、5会場（福岡除く）では職員による揮毫を行い、福岡会場では西南学院高等学校書道部を招いて書道パフォーマンスを披露した。

ア. 募集方法 指導者・会員に募集要項などを配付し、  
 機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」に開催告知を掲載した。またSNSで配信し参加者を募った。



【募集ポスター】

イ. 後援 北海道教育委員会、愛知県教育委員会、  
 兵庫県教育委員会、福岡県教育委員会、  
 沖縄県教育委員会、報道機関17社

ウ. 開催実績 参加者数2,466人(目標2,100人)

開催日(令和8年)	大会名	会場(開催地)	参加者数
1月5日	東京大会	大森スポーツセンター(大田区)	206人
1月6日	岡崎大会	岡崎中央総合公園総合体育館(岡崎市)	312人
1月6日	神戸大会	神戸常盤アリーナ(神戸市)	332人
1月7日	札幌大会	札幌市厚別区体育館(札幌市)	185人
1月12日	福岡大会	福岡国際センター(福岡市)	705人
	オンライン	自宅や習字教室など	462人
1月12日	沖縄大会	沖縄市体育館(沖縄市)	264人
合計			2,466人



【東京大会】



【福岡大会】



【オンライン開催】

エ. 審査 日本習字全国書き初め大会審査委員会

オ. 審査結果

	賞の名称	点数
個人表彰	書き初め大賞	9点
	書き初め準大賞	27点
	審査委員会奨励賞	54点
	日本習字賞	418点
	金賞	969点
	銀賞	738点
	銅賞	251点
団体表彰	奨励団体賞	75団体

カ. 作品発表

書き初め大賞・書き初め準大賞・審査委員会奨励賞受賞作品は、公式W

e bサイトで発表した。また、書き初め大賞作品は、機関紙「日本習字だより」「たのしい習字」に掲載した。外部向けとして、書き初め大賞作品（レプリカ）を福岡事務所にて展示した。



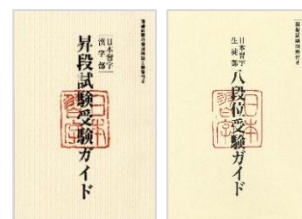
【公式Webサイト】

【日本習字 福岡事務所】

### 三. 書道に関する機関誌その他の出版物の発行

補助教材として出版物を発行した。主な出版物は次のとおり。

- (1) 漢字部昇段試験受験用教材として「日本習字漢字部昇段試験受験ガイド」、生徒部八段位昇段試験用教材として「日本習字生徒部八段位受験ガイド」を発行した。



- (2) 幼児・児童向け教材として「はじめてのひらがな（入門編）」、「だいすき！ひらがな（練習編）」、「ひらがな練習帳1（五十音）」、「ひらがな練習帳2（ことば）」、「カタカナ練習帳」を発行した。

- (3) 漢字学習教材として日本習字漢字練習帳「1年生のかん字」を発行した。（その他2年生～6年生まで）。



- (4) 幼児の手本受講までの導入教材として、幼児向けの学習教材「はじめ“て”Labo」と年長児向け学習教材「えんぴつクラブ」を発行した。同教材の習字教室での活用を促進するため、指導者限定のお試しセットを頒布した。



#### 四. 文字資料その他文化資料の調査研究と展示公開

本法人が所蔵する文字資料及び文化資料の次世代への継承を図るため、専門的な調査研究を継続的に実施するとともに、企画展及び特別展を開催し、書道の学術的価値と魅力の発信に努めた。

##### 1. 書道文化に関する調査研究

博物館観峰館の収蔵資料の中から中国書画をはじめ、日本の教科書など筆墨文化に関する資料を分類整理し調査研究を行った。

###### (1) 関西中国書画コレクション研究会への参加

近代中国書画に関して他の博物館及び大学等研究機関との連携による共同研究に参加した。加盟館 9 館：京都国立博物館ほか。

###### (2) 国立歴史民俗博物館共同研究への参加

「秦漢時代の文字使用をめぐる学際的研究」として、館蔵秦封泥資料を対象とした共同研究に参加した。

###### (3) 収蔵資料のデータベース化

収蔵資料の内容・作者・法量・制作年などをデータベース化した。新規画像入力 188 件。

###### (4) 『観峰館 開館 30 周年特別企画展 王羲之からの手紙 — 国宝「孔侍中帖」と中国書法名品選 —』

図録を刊行し、研究者・関係機関等に進呈するとともに展覧会にて販売した。

##### 2. 文字資料その他文化資料の展示公開

###### (1) 常設展示（主な展示資料）

ア. 近代中国の書画、中国の文字資料、復元石碑

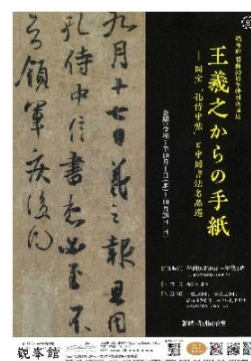
イ. 「避暑山荘」・「三希堂」の復元資料

ウ. 原田観峰先生書作品



###### (2) 企画展示を次のとおり実施した。

会 期	名 称
4月 5日～5月 6日（前期） 5月 9日～6月 8日（後期）	春季企画展「中国書法 リレー展示 何紹基 VS 楊峴」
6月 28日～9月 15日	夏季企画展「没後 30 年 原田観峰の書法展」
10月 1日～10月 26日	観峰館 開館 30 周年特別企画展「王羲之からの手紙 — 国宝「孔侍中帖」と中国書法名品選 —」



(3) バーチャル観峰館の公開

常設展示・企画展示の内容を遠方からでも閲覧できる、バーチャルツアーサイトを作成し、Webサイト上で公開した（閲覧件数：17,517件）。



【バーチャル観峰館】

(4) 館外展示

日時	会場（開催地）	内容	来場者数
9月20・21日	函館市芸術ホール （北海道函館市）	函館心代会40周年記念作品 展解説	530人
9月22日	室蘭市市民活動センター きらん（北海道室蘭市）	室蘭市支部長交流会展示解説	10人
9月23日	北農健保会館 芭蕉 （北海道札幌市）	札幌市支部長交流会展示解説	52人

3. 教育・文化施設の運営

博物館観峰館の施設運営並びに館内で各種体験学習教室、各種イベントを開催した。

(1) 概要

- ア. 開館日 4月5日～12月14日
- イ. 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）  
展示替え期間（6月10日～6月27日ほか）  
資料調査・整理休館（12月16日～令和8年3月16日）
- ウ. 開館日数 195日  
※春季企画展全件展示替のため休館日を1日追加  
※かきぞめ展示等臨時開館は含めず
- エ. 入館料 一般1,000円、高校・大学生800円、小・中学生無料  
特別企画展は一般1,800円、学生1,200円、高校生700円（団体割引、その他各種入館割引を実施）

オ. 入館無料日 国際博物館の日ほか、年間計4日

カ. 入館者数 5,899人(入館目標3,550人)

※開館30周年特別企画展の反響が大きく、入館目標を上回る

(2) 書道に関する体験学習教室の開催

瓦当拓本教室、石碑採拓教室などを適宜開催した。

(3) 各種イベントの開催

ア. 開館30周年特別企画展ギャラリートーク

15回(参加者583人)

イ. アンティークオルゴール鑑賞会

1回(参加26人)

ウ. 土曜講座 4回(参加者69人)

エ. 第30回観峰館かきぞめ大会(参加者26人)

(4) 博物館学芸員実習生の受け入れ

7月30日～8月3日に実施した。(京都府立大学1人)

(5) 地域及び教育機関と連携した学習・研修機会の提供

東近江竜田を語る会歴史公開講座出講(参加者31人)

淡海書道文化専門学校石碑採拓実習指導(参加者46人)

(6) 展示資料解説

各種団体(20名以上)に対し館内案内・資料解説を行った。

(岐阜女子大学など7団体271人)



【石碑採拓】



【かきぞめ大会】

五. 書道に関する教育・研究機関への助成

なし

六. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

なし

## ■運営体制の充実に関する事項

### 1. 意思決定及び監督体制の充実

定例理事会（5月・3月）及び評議員会（6月）を開催し、法人運営に関する重要事項の審議・決定及び業務執行の監督を行った。

外部理事及び外部監事については、法務、財務・会計等の専門的知見を有する弁護士、公認会計士及び税理士を選任し、専門的かつ多角的な視点から意思決定の適正性及び透明性の確保に努めた。

また、常勤理事等による常務会等を機動的に開催し、迅速かつ適切な業務執行体制の維持に努めた。

### 2. リスク管理及びコンプライアンス体制

#### (1) リスク管理及びBCP対応

「リスク管理規程」に基づき、年2回開催するリスク管理委員会において、組織的なリスクの把握・評価及び対応策の検討を行うとともに、次年度に向けた取組計画を策定した。令和8年度は、事業継続計画（BCP）に基づく中核事業3事業について、災害・システム障害等発生時における業務継続体制の強化を目的として、手順書等の整備を進めることとした。

#### (2) 就業環境の整備とハラスメント対策

ハラスメント相談窓口の整備及びカスタマーハラスメント対策を実施し、適正な就業環境の維持及びコンプライアンス意識の向上に努めた。ハラスメント対策及びメンタルヘルス対策については、研修の実施や外部専門機関の活用（オンラインカウンセリングサービス）等を通じて、継続的な強化に努めた。

#### (3) 任意の会計監査と内部統制の強化

独立監査法人による任意の会計監査を継続して実施し、定期監査に加え、観峰館展示資料監査並びに沖縄書道会館及び福岡物流センターに対する施設監査を通じて、財務報告の適正性及び内部統制の強化に努めた。

### 3. 監事監査の実効性の確保

監事が理事会等の重要会議に出席し、必要に応じて意見を述べることのできる体制を維持するとともに、決裁書類その他重要書類の閲覧や各種調査への協力を通じて、監査環境の整備に努めた。また、監事、独立監査法人及び理事との三者連携を図り、監査結果や課題認識に関する情報共有を行うことで、監査機能の独立性及び実効性の確保に努めた。